



～本が作られるまで～

みなさんは、本が作られるまでどのような工程がありどれくらいの人に関わっているのかを考えたことがありますか？この号では、本について考えるきっかけを作ってもらいたいという思いから、本が作られる工程を紹介します。

① 企画づくり

大筋の企画・コンセプトやテーマが決め、全体構成（章立てや目次）を決める。

② 作り方を決める

出版方法や出版社を選び、著者ができることを出版社と調整し、費用を見積もる。

③ 原稿執筆

著者が原稿を書いていき、必要に応じて挿入図版や表を作成する。（ライターが、著者の持っている「伝えるべき情報」を取材して引き出し、原稿として書き上げることもある。）

④ 編集

編集者がプロの目線、客観的視点で原稿を確認し、必要に応じて、編集者またはライターが原稿を修正する場合もある。

⑤ 組版

原稿や図版を書籍用にレイアウトし、書籍として印刷できるデータの形に加工する。

⑥ 表紙デザインの制作

デザイナーに表紙のイメージや書籍情報を伝えて作成を依頼し、帯を作る場合は帯のデザインも用意する。

⑦ 校生/校閲

原稿や書籍データに間違いや不備がないかをチェックする。

⑧ 印刷・流通処理

印刷会社に印刷用のデータを入稿し見本をチェック（色校正）した後、印刷・製本をする。

⑨ 書籍販売

書店（Web書店やリアル書店）に本が並べられる。

短くて2か月
長くて3年を要する

（出典：masterpeace 書籍制作の仕組みと流れを知ろう）

今やスマートフォンで何でも完結してしまう社会ですが、本への信頼や価値が薄れないのはこのように、いくつもの工程と多くの専門家が関わり、長い期間を経て作られるからでしょう。高高生ですから、本を大切に使うことは重々承知だとは思いますが、今一度、本に対する視点を変えて本に触れてみてはいかがでしょうか。

～レコード鑑賞会～

11月1日レコード鑑賞会が図書室で行われました。

今回のレコード鑑賞会はYUMING特集！あの名曲からDJ. AKIRA推薦の隠れ名曲まで計8曲が流されました。

私の所属するクラスである1年5組の中でレコード鑑賞会に訪れた方々に質問したところ、「スマホで聞くのとは違い、音を体で感じた。小さい頃聴いた記憶が蘇り懐かしかった。」(J,0さん)や「面白そうと思って行ったが、滑らかな音が図書室いっぱい流れ、普段の生活から離れた、落ち着いた時間を過ごせた。」(H,0さん)など評判はとも良かったです。



今回のMENU/祝50周年 YUMING 特集

～opening track ルージュの伝言

1, あの日にかえりたい

2, ノーサイド

3, DOWNTOWN BOY

4, BLIZZARD

5, セシルの週末

6, 卒業写真

～closing track やさしさに包まれたなら



～ビブリオバトル県大会～

10月の校内ビブリオバトル大会で優勝した1504大澤秀康さんが、11月5日に行われたビブリオバトル県大会に出場しました。ビブリオバトル県大会で、大澤さんが発表した本を紹介します。



「なぜ世界を知るべきなのか」 池上彰著

「この本は、多様な文化、多様な思考、多様な生き方など日本という国にいただけでは決して持ち得ないような視点に気づかせてくれる。そして、多くの視点を持てるようになることで誰でも必ず大きく成長できる。YouTubeもいい、ゲームもいい、でも世界はもっと面白い！読んでいると思わず世界へ飛び出したくなる、そんな本である。」

(大澤さんによる本の紹介)

11月中に発行できなかったことを心よりお詫び申し上げます。(編集 1529 平塚生)